

「民間信仰で救われる」

臨床宗教師養成の特別講義

龍谷大が一般公開

被災地や医療現場などで傾聴を通じて心のケアを行う「臨床宗教師」を養成し



龍谷大大学院の特別講義で講演する鈴木岩三・東北大大学院教授
＝京都市下京区

東北大・鈴木教授が講演

ている龍谷大大学院は22日、京都市下京区の龍谷大宮学舎で特別講義を行い、一般にも公開した。東北大大学院の鈴木岩三教授（宗教民俗学）が「わが国宗教史における『臨床宗教師』の位置」と題して講演した。

臨床宗教師は東日本大震災を機に平成24年、東北大大学院が養成を開始。

その背景について、鈴木教授は「震災では、だれもが死を意識しないうちに突然の死が訪れた。悔いや負い目を持って生きる人が大勢残されたからこそ、宗教者による支援が必要になった」と分析した。

また、教義が明確で組織的な宗教が、変化し曲解されることによって、個人レベルの民間信仰になるという構造を指摘。「地域によって死の文化は微妙に異なるが、現実には生きた民間信仰で人は救われている。臨床宗教師だけでなく、宗教者は教義の規制からの『ずれ』を広げるべきだ」と語った。

今回の特別講義は7月1日、東北大大学院の高橋原准教授が「宗教者に求められる心のケア」をテーマに講演する。一般の聴講も可能。問い合わせは龍谷大文学部教務課（☎075・343・8331）。

（小野木康雄）

2015年6月18日（木）

産経新聞（朝刊）京都版